

欠片から過去の姿を復元していく

～古生物の姿と過去の生態系を知る手掛かりに迫る～



自然・環境評価研究部 地球科学研究グループ

久保田 克博

現生鳥類を除く脊椎動物（背骨がある動物）の多くはアゴに歯をもっています。その歯の形状は多様で、その動物の食性を反映しています。恐竜類もその例に漏れず、多くの肉食恐竜の歯は前後に鋸歯（ステーキナイフのようなギザギザ）をもち、植物食恐竜の歯は植物を削ぎ取ったり、切り刻んだりするのに適しています。恐竜類も爬虫類の1グループであることから、歯は何度でも生え変わるため、発見される化石のうち、歯が最も多い部分とされています。このことから、恐竜類の歯に関する研究は古くから行われ、特徴的な歯は持ち主のグループが特定されてきましたが、系統的な研究は十分になされていませんでした。しかし、近年、肉食恐竜（獣脚類）の歯の系統学的な研究成果が出版され、歯の持ち主を探る研究が飛躍的に進展しました。

兵庫県丹波市と丹波篠山市に分布する前期白亜紀に堆積した篠山層群大山下層からは多くの獣脚類恐竜の歯が採取されており、上述した研究成果を活かして、分類学的な研究が進められています。現在のところ、ティラノサウルス上科やドロマエオサウルス科などを含む、少なくとも4種類の歯が含まれる可能性が見えてきました。それ以外にも未同定の歯が発見されていることから、今後の研究が進むことで、篠山層群では未発見の新たなグループの獣脚類恐竜が報告されるかもしれません。



ティラノサウルスの頭骨。アゴには太い歯が並んでいる。



ティラノサウルス上科の歯

ドロマエオサウルス科の歯